

2025 年度 第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会 議事録

1. 日時

2025 年 7 月 29 日（火） 14:00～16:00

2. 場所

早稲田速記医療福祉専門学校 本校 4 階 404 教室

3. 出席者（順不同・敬称略）

企業等委員：須貝和則（国立国際医療研究センター医事管理部長）、町田洋治（東京都済生会中央病院事務次長代理）、直井智之委員（東大和病院）、関 明（東京女子医科大学病院事務部 課長）

本校委員：川口拓也（校長）、石澤雅子（医療秘書科学科長）、川畑亮子（医療事務 IT 科・診療情報管理科学科長）、江崎侑子（診療情報管理科教員）、榊原幸之（事務局長）

オブザーバー：前田律子（副校長）

委員会事務局：土方雄太

4. 欠席者

なし

5. 議長

川畑亮子

議題等

1. 今年度委員の確認

事務局より今年度の委員構成が確認され、新任の委員が紹介された。

2. 校長挨拶

校長より挨拶。昨今の学生募集における厳しい状況に触れ、特に「医療離れ」が深刻な課題であるとの認識を示した。一方で、留学生の増加は明るい兆しであり、現場のニーズに応えられる実践的な人材育成の重要性を強調した。

3. 前回委員会議事録の確認

事務局より前回（2025 年 2 月 14 日開催）の議事録案が提示され、内容に異議なく承認された。

4. 2024 年度第 2 回委員会以降の主な経過について

事務局長より、資料 2 に基づき、学生の退学状況、就職内定状況、授業アンケートの実施状況、および 2025 年度生の募集状況について報告が行われ、了承された。

5. 2024 年度就職状況報告について

各学科長より、資料 3 に基づき、2024 年 3 月卒業生の最終的な就職状況が報告された。

6. 2025 年度教員研修計画・実績について

各学科長より、資料 4 に基づき、教員の研修計画・実績が報告された。

7. 2025 年度・2026 年度カリキュラム実施状況報告および編成等に関する意見交換

各学科長より、資料 5 に基づき、現行カリキュラムの実施状況と来年度以降の編成について報告があり、意見交換が行われた。

医療秘書科：2 年次のコースを 6 つから 3 つに再編。次年度からは調剤事務をコースとは別に科目として学べるように検討中。

医療事務 IT 科・診療情報管理科：「医学用語」「基礎医学知識」のオンデマンド化、IT パスポート資格取得の現状と課題について報告。医療情報基礎知識は秋の受験に向けて頑張っている。

（教員）：診療情報管理科について各資格・検定の合格率について説明がなされた。卒業後のサポートも実施している。在学中のモチベーション低下を防ぐためによりサポートを充実させていきたい。

【委員からの意見・討議】

（医療事務分野共通）

- ・当院の採用活動で、学生間のコミュニケーション能力に大きな差を感じる。特に、面接で全く話せなくなる学生がいる。社会人としての基本的な対応力、特に精神的な強さをどのように育成するかが大きな課題ではないか。

- ・確かに対人スキルが苦手な学生は増えている一方で、医療秘書科の実習後発表会では、堂々と発表できる学生もあり、個人差が大きいのが実情である。

（医療秘書科）

- ・今年度、人間関係を理由に 2 名が退学した。大人から見れば些細なことでも、本人たちにとっては深刻な問題であり、学校としてどこまで介入し、サポートできるか苦慮している。

- ・当院の見学会では、留学生の方が日本人学生よりも自身のキャリアプランについて積極的に質問し、高い意欲を感じる。日本人学生にも、より主体的な姿勢を期待したい。

- ・現場でも発達特性を持つと思われる職員はいるが、非常にデリケートな問題であり、明確なトラブルがない限りは、業務に支障が出ないよう見守るのが現状である。学生のうちから多様な人との関わり方を学ぶことは重要ではないか。

- ・看護実習では命に関わるため厳しい指導は避けられない。時には事故を防ぐため、厳しく手を払うこともあるが、それは学生を守るための指導である。しかし、現代の学生はそれを怒られたと捉え、落ち込んでしまう。なぜその指導が必要なのか、その背景にある意味を学生に繰り返し伝えることが不可欠である。

- ・叱られた経験が少ない学生にとって、患者様からのクレーム対応などは大きな精神的負担

になるだろう。実習前に、そうした厳しい場面もあり得るという心構えをさせる教育も必要かもしれない。

（医療事務 IT 科・診療情報管理科）

・アプリケーション総合演習は重要だが、より現場のD X化に対応するため、R P Aや生成A I といった新しい技術を教える機会も設けるべきではないか。例えば、会議の議事録作成をA I に要約させる、といった実践的な演習も考えられる。

・提案は非常に魅力的だが、現状は厳しい。

（医療秘書科・医療事務 IT 科・診療情報管理科）共通

・多くの学生がスマートフォンに慣れている一方で、P Cの基本操作、例えばタイピング、ファイルの保存場所の理解、メールへのファイル添付といった基礎的なスキルが著しく低い。まずはその基礎を固めるのに手一杯なのが実情で、電源の入れ方から教えることもある。

・G I G Aスクール構想で導入されたのがP Cではなくタブレットであった影響が大きい。高校でP C操作にほとんど触れないまま入学してくる学生が増えている。これは本校だけの問題ではないだろう。

（診療情報管理科）

・当院でも会議の議事録作成にA I 音声認識ツール（YOMEL）を導入するなどD X化が進んでいる。学生には、新しい技術を積極的に活用する姿勢を身につけてもらいたい。

・当院ではジョブローテーションを導入し、職員には様々な部署を経験してもらう方針だ。一つの部署に固執せず、多様な業務に対応できる柔軟性が、長期的なキャリア形成に繋がる。

・学生のうちから、そうした視点を持つことが望ましい。診療情報管理士から始めても、将来的には経営企画など、様々な道が開ける。

・当初は、診療情報管理士の資格を取得し、診療情報管理士として働くことを考えている学生が多いが、実習や見学会などを経験する中で、進路に対する考えが変わってくる傾向もある。

（医療秘書科・医療事務 IT 科・診療情報管理科）共通

・当院では、地方出身で自立している学生が非常にしっかりしているという印象がある。厳しい環境で学ぶことが、人間的な成長を促す面もあるのではないかな。

・留学生は、日本で働くという明確な目的意識とハングリー精神がある。そうした意欲の差が、就職活動での積極性にも表れているのかもしれない。当院としても、語学力を活かせる国際連携部門など、多様なキャリアパスを提示することで、優秀な留学生を惹きつけたいと考えている。

（診療情報管理科）

・診療情報管理士の仕事は専門性が高いが、それだけでなく、病院全体のデータを見て経営に貢献できるという面白さがある。学生には、そうしたキャリアの広がりや魅力を伝えていくことが重要だ。

【まとめ】

医療秘書科、医療事務 IT 科、診療情報管理科に共通して、学生の社会人基礎力、特にコミュニケーション能力と精神的な強さ（レジリエンス）の育成が喫緊の課題であることが再確認された。また、PCスキルの基礎固めを徹底しつつ、RPAやAIといった新しい技術に触れる機会をいかにカリキュラムに組み込んでいくか、そして、学生に多様なキャリアパスと仕事のやりがいを伝え、学習意欲を高めていくことが今後の重要な検討課題とされた。